

報告事項ウ

鳥取・島根広域連携協働事業について

鳥取・島根広域連携協働事業について、別紙のとおり報告します。

平成25年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横濱 純一

鳥取・島根広域連携協働事業について

平成25年6月28日
文化財課

1 事業の名称

いづものくに ほうきのくに
出雲国・伯耆国の文化資源を活かした魅力あるまちあるき体験プログラム事業

2 現状と課題

従来の文化財の展示や解説は専門的になりがちで、それらの魅力は、歴史などに造詣が深い限られた人にしか伝わりにくく、一般市民からは敷居が高く感じられることが多い。このため、文化財が所在する地域の人たちを活用の諸活動に巻きこめていない。また、積極的に応援してくれる人も自ずと限られている。両県のどこでも同じような課題を抱えている現状がある。

3 事業の目的と経緯

こうした現状と課題を解決するために、松江市・大田市などでNPO法人が実績を残している「まちあるき」手法を応用して、出雲国と伯耆国の「文化資源を活かしたまちあるきプログラム」の開発・運営を通して、地域の文化資源の担い手を育成し、文化財の積極的な活用を促そうとするものであり、このたび鳥取・島根広域連携協働事業（※）に提案、5月29日の審査会で採択されたもの。

※「鳥取・島根の広域連携による地域課題の解決」をテーマとして、両県のNPO法人等で構成する共同体と事業担当課が協働で取り組む提案事業に対して、その実施に必要な経費を両県が助成するもの（1事業あたり上限400万円）。

4 事業主体と行政との協働

(1) 事業主体：まつえ・まちづくり塾・夢蔵プロジェクト共同事業体（※）

※松江市を拠点とするNPO法人まつえ・まちづくり塾と米子市を拠点とするNPO法人夢蔵プロジェクトでつくる共同体。

(2) 行政側担当課：島根県庁文化財課・鳥取県立むきばんだ史跡公園

その他、実施にあたって地元市町村及びNPO等の既存活動団体の協力を得る。

5 事業対象エリア

主たる事業エリアとして鳥取県立むきばんだ史跡公園と島根県立八雲立つ風土記の丘周辺で、まちあるき事業を展開する他、たたらを活かした地域づくりに取り組む奥日野と奥出雲でも今年度は試行的に実施する。鳥取・島根両県の4カ所で開催することにより、それぞれの地域の魅力と個性、共通性がより際立ち、まちづくりの相乗効果が期待できる。

6 事業の進め方

(1) 活動のための場づくり（準備）

ア 文化資源を活かしたまちあるきプログラムへの参加者の声掛け

イ 専門家による基礎情報の抽出ワークショップを開催

(2) まちあるきならびに体験プログラムの開発

ア 新規プログラムの構築の作業をゴールとした地域資源発掘のためのフィールドワークとワークショップを次の3段階で開催する。一方、既存プログラムの参加呼びかけ・構築も同時に行う。

【1】みつける「地域のとおきを見つける～まちあるきのアイデアづくり～」

【2】みがく「アイデアを実行案へ～プログラム構築にむけての組み立て～」

【3】つたえる「好きという想いを伝える～共感を生むまちあるきプログラム～」

(3) プログラムの実施

10月から12月にかけて、各地域でそれぞれ1ヵ月程度、土日を中心としてプログラムを開催する。

(4) ふりかえりの会

1月にプログラム実施者でふりかえりの会を開催し、次年度に引き続き開催するための仕組みを検証。

(5) フォーラムの開催

2月にまちあるきプログラムのまとめとなる両県合同フォーラムを開催する。

7 予想される効果

- まだ魅力を伝えきれていない文化財の価値を再認識することで、地域のファンが増えるとともに、地域に「誇り」がよみがえる。
- プログラム実施者・参加者ともに多様な人が関わることになり、「私にできること」を見つけることを通して、地域（文化）を担う人材が育つ。
- 文化財や地域を応援してくれる人が増加し、地域ににぎわいが生まれる。
- 鳥取・島根ともに同時期に開催することで、県域を越えた開催地同士の相互のネットワークづくりができる。
- 参加者による自主的な地域づくり、まちづくりへの展開が期待される。
- こうした取り組みの有効性が認められれば、同じ課題をもつ他地域へも波及することが期待される。

【平成24年度の「まちあるき」事業の様子】



プログラムづくり講座



まちあるきプログラム「今も生きている近代化遺産」



まちあるきプログラム「今も生きている近代化遺産」



ふりかえりの会